

済生会みすみ病院の開設に伴い、地域の住民が安心して生活できるためには救急体制の確立が、特に循環器疾患において重要との認識のもとスタートした一年であった。庄野と熊本病院から派遣の若手医師の二人体制ではあるが、24時間体制で循環器医師の待機を行い、速やかな循環器救急医療を実践した。表1に示すような急性期の症例以外にも、頻脈性不整脈疾患などの症例の診療を行うことができた。高齢者が多く、心不全や閉塞性動脈硬化症など、動脈硬化に関連する疾患が多くみられた。熊本病院から派遣された先生方には、循環器関連疾患だけでなく肺炎などの呼吸器疾患も担当していただき、熊本病院からの応援に感謝したい。

表1 主な急性疾患患者数

急性心筋梗塞	19例
急性大動脈解離	5例
急性心不全	50例
不安定狭心症	13例

循環器関連の入院例は295例であり、病院全体の約24%であった。疾患の種類は図1に示すように心不全が40%と最も多く、その他、狭心症20%、心筋梗塞10%、不整脈12%、大動脈解離7%、その他の血管疾患11%となっている。

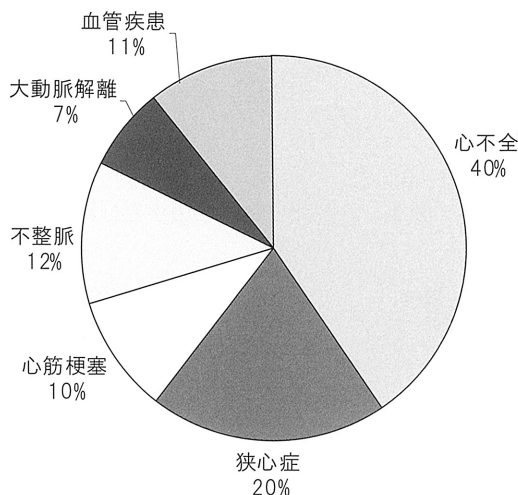


図1 循環器入院例の疾患分類

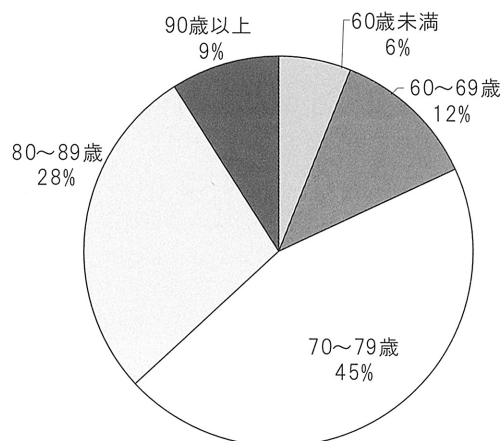


図2 循環器入院例の年齢分布

カテーテル治療、手術などの急性期治療、精査目的で熊本病院に紹介入院となった症例は87例であった。入院例の年齢分布（図2）をみると、高齢者が非常に多いことがわかる。平均年齢は76.3歳（中央値78歳）で、70歳以上の患者が82%となっており、60歳未満の患者より90歳以上の患者が多い。このような患者の退院後の治療をどのように考えていくかも今後の課題である。